

様式1 令和4年度 清瀬市立清瀬第二中学校 学校評価計画					
学校の教育目標		愛情 より豊かな 心をつちかう 学力 より深く 自ら学ぶ 勤労 よりよくはたらき 責任をはたす 健康 よりたくましく 心身をきたえる		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動	
目指す学校像(ビジョン)				・生涯学び続ける力・人間性の育成 ・ふるさと清瀬を誇りにし、持続発展の主体となる力 ・生きて働く知識・技能の育成 ・考える力、判断する力、表現する力 ・育てたい4つの心「感謝する心」「自他の発言、意見を大切に する心」「共に学ぶ心」「社会の中で活きている意識」 ・学校支援本部との連携	
【目指す学校像】		「笑顔と あいさつ そして ありがとう」が溢れる清瀬二中			
【目指す児童・生徒像】		「自分で考えて行動する力」を持つ生徒			
【目指す教師像】		「生徒が主役であることを大切にし、感謝を忘れず、教師であることを誇りに思う教員」			
前年度までの学校経営上の成果と課題					
・学力向上において、落ち着いた学習環境により、基礎的な学力の定着が見られるが、読みとる力や書く力(思考の文字化)などに課題が見られる。 ・豊かな心育成には、学校や学年の行事がなどの活動場面が必要であり、ここ2年間はコロナ禍の制約があるなかでの活動であった。本年度は、感染予防を図りながらもさまざまな活動を模索することが課題である。 ・健やかな体の育成で、給食指導を要とした食育を進めてきており、さらに保健給食委員会等による生徒の自主自立的な活動や保健指導など展開する事が大切である。					
柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	授業の質的充実を図り、共に学ぶ心を育てる。	他の生徒と協力して学びに向かう姿勢や課題解決のために考え抜く力、自分が学んだことを活用、表現できる能力を育てる。	授業の課題解決のために考える時間をとり、話し合い活動を通して、自分が学んだことを活用、表現する場面を設ける。 GIGAスクール構想に基づき、主体的、対話的な学習の中にもICTの活用を図る。 ICT機器の校内研修会等を進めて、タブレットPC等を取り入れた授業実施を深める。	4 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが90%以上	4 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが90%以上
				3 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが80%以上	3 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが80%以上
				2 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが60%以上	2 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが50%以上
				1 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが60%未満	1 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが50%未満
				4 全教科での実施	4 生徒の評価が4段階評価でA・Bが90%以上
				3 実施率80%以上	3 生徒の評価が4段階評価でA・Bが80%以上
				2 実施率50%以上	2 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%以上
				1 実施率50%未満	1 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%未満
豊かな心の育成	自己実現を図る指導を図り、自他を大切にして感謝をする心を育てる	行事や学級活動において生徒が主体的に取組むことで、達成感を感じ、自己肯定感や自尊感情を高める。 いじめがなく、生徒一人一人が大切にされる学校・学年・学級作りを目指す。	学校行事や学年行事、学級活動、委員会活動、さらに授業展開において、生徒が主体的になるような指導を意識し、計画する いじめ調査や学級環境適応尺度調査を実施して、学級経営や面談に活用する。	4 教職員の取り組み評価がA・Bが90%以上	4 生徒の自己評価が4段階評価でA・Bが90%以上
				3 教職員の取り組み評価がA・Bが80%以上	3 生徒の自己評価が4段階評価でA・Bが80%以上
				2 教職員の取り組み評価がA・Bが60%以上	2 生徒の自己評価が4段階評価でA・Bが50%以上
				1 教職員の取り組み評価がA・Bが60%未満	1 生徒の自己評価が4段階評価でA・Bが50%未満
				4 調査と面談を合計6回以上	4 生徒の学校生活評価A・B90%以上
				3 調査と面談を合計5回	3 生徒の学校生活評価A・B80%以上
				2 調査と面談を合計4回	2 生徒の学校生活評価A・B50%以上
				1 調査と面談を合計3回以下	1 生徒の学校生活評価A・B50%未満
健やかな体の育成	運動を楽しみ、食育を意識して、健康的に生活や健康な心身の育成に関する意識を高める。	体育の授業や体育行事、部活動を実施する。 自分の生活リズムを見つめ、また食育を推進して、健康的に生活する大切さを身につける	体育の授業では運動することの楽しみや自己の健康についての取組を行う。 栄養に関する授業や食育に関する情報、健康に関する情報などを発信する、また自分の生活を見つめる活動を実施する。	4 教職員の取り組み評価がA	4 生徒の評価が4段階評価でA・Bが90%以上
				3 教職員の取り組み評価がB	3 生徒の評価が4段階評価でA・Bが80%以上
				2 教職員の取り組み評価がC	2 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%以上
				1 教職員の取り組み評価がD	1 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%未満
				4 授業や取組の回数が合計10回以上	4 生徒の評価が4段階評価でA・Bが90%以上
				3 授業や取組の回数が合計8回以上	3 生徒の評価が4段階評価でA・Bが80%以上
				2 授業や取組の回数が合計5回以上	2 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%以上
				1 授業や取組の回数が合計5回未満	1 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%未満
特別支援教育の充実	特別な支援を必要とする生徒への支援の充実	特別な支援を必要とする生徒に関する情報の共有 特別な支援を必要とする生徒の理解と支援の方策や来年度開級する特別支援学級についての研修や情報共有	特別支援委員会を中心とした情報交換や検討会を定期的に実施する。 特別支援委員会を中心とした外部のアドバイザーによるカンファレンス等や特別支援学級開設に関する研修会等の実施	4 ほぼ毎週実施	4 教職員の評価が4段階評価でA・Bが90%以上
				3 ほぼ隔週ごとに実施	3 教職員の評価が4段階評価でA・Bが80%以上
				2 月に1回程度実施	2 教職員の評価が4段階評価でA・Bが50%以上
				1 隔月ごとに実施	1 教職員の評価が4段階評価でA・Bが50%未満
				4 年15回以上の実施	4 教職員の評価が4段階評価でA・Bが90%以上
				3 年10回以上の実施	3 教職員の評価が4段階評価でA・Bが80%以上
				2 年5回以上の実施	2 教職員の評価が4段階評価でA・Bが50%以上
				1 年5回未満の実施	1 教職員の評価が4段階評価でA・Bが50%未満
本校の特色	開かれた学校と家庭・地域との連携	学校支援本部とう連携を図り、様々な活動を試み、また外部の人材を活用する。 学校情報を地域・保護者に積極的に発信する。	学生や保護者・地域の方のボランティア活動を実施する。 学校、学年だより等の発行と、HPを利用して情報発信をする。	4 地域の人材活用の取組を年8回以上実施	4 保護者の評価が4段階評価でA・Bが90%以上
				3 地域の人材活用の取組を年6回実施	3 保護者の評価が4段階評価でA・Bが80%以上
				2 地域の人材活用の取組を年4回実施	2 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%以上
				1 地域の人材活用の取組を年2回実施	1 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%未満
				4 学校・学年便り発行計60号以上、HPの更新毎週2回以上	4 保護者の評価が4段階評価でA・Bが90%以上
				3 学校・学年便り発行計50号以上、HPの更新毎週1回以上	3 保護者の評価が4段階評価でA・Bが80%以上
				2 学校・学年便り発行計40号以上、HPの更新隔週1回以上	2 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%以上
				1 学校・学年便り発行計40号以下、HPの更新隔週1回以下	1 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%未満